

様式（第 8 条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和 6 年度益田圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和 6 年 11 月 21 日（木） 13:30～15:30
開催場所	益田市立図書館 視聴覚室
出席者	○出席者 [懇談会委員] 立石正計委員、松浦聖委員、大畑力委員（会長）、田村俊則委員、森田泰精委員、中島衛委員、塩満建二委員、大崎弘康委員、島田憲和委員、澄川和宏委員、村上智孝委員、齋藤遼委員、金子成一郎委員（副会長）、豊田知世委員 [事務局] 益田市政策企画局 石川局長 益田市政策企画課 田原課長、山根課長補佐 [連携自治体] 津和野町つわの暮らし推進課 宮内課長、豊田副主任主事 吉賀町企画課 深川課長 ○欠席者 [懇談会委員] 下森定委員
議題	○益田圏域定住自立圏の取組について ○重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について ○令和 5 年度実績、令和 6 年度取組予定の事業について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0 名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会	
2. 委員紹介、会長・副会長の選任	
会長に大畑委員、副会長に金子委員を選任。	
傍聴の確認	
傍聴人なし	
3. 益田圏域定住自立圏の取組について	
○益田圏域定住自立圏の取組について事務局から報告（資料 1）	
委員	第 3 次ビジョンとあるが、これは何次まである計画なのか。
事務局	平成 24 年からスタートし、5 年ごとで第 1 次、第 2 次と進めてきており、現在は第 3 次となっている。終期については今のところ設定してお

	らず、5年ごとにその時々課題を見ながらKPIを設定し、3市町そろっての発展、定住人口の増加を目指して進めている。
○重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について事務局から報告（資料2）	
委員	資料4の益田市の令和5年と4年の宿泊数の増減は。
事務局	益田市では、令和5年が22万3千人、令和4年が23万1千人と、宿泊者数は減少している。要因としては、観光のみではなく仕事で宿泊する方も多く、特に、浜田市の三隅火力発電所の関係で従事している方が益田市内の宿泊施設を利用していると聞いている。そういった方が令和5年度は減少したと聞いている。
委員	通番4の医療施設等整備支援事業で、令和5年度末のところで六日市病院は既によしか病院に変わっている、
委員	KPIの出典等のところにまだ「六日市病院」の名前が出ているのを「よしか病院」に修正していただきたい。
事務局	出典等の部分について修正する。
委員	アユの流下仔魚数について、この仔魚はどこ産のものか。
委員	この流下仔魚数は、高津川の川の中で産まれた仔魚を実際に獲って数えている。これは100パーセント高津川産。
委員	空き家は日本全国で問題になっている。益田市内でも空き家がたくさんあり、一部では外国の方の住居として活用されている。空き家はどういうふうにして利用されるのか。例えば、個人が空き家として申請するのか、あるいは市が見て回って、これは空き家ではないかとするのか。
事務局	空き家の活用は、所有者の意向が重要になってくる。空いた建物をほかの方に貸したり譲ったりできることを各市町で住民の方々に周知をしている。問い合わせがあったものについては、各市町のほうで希望する方に紹介し、マッチングを行っている。 空き家が増えてきているが、行政が勝手にほかの方に譲るということは難しい。こういった活用事業があることを皆さんに周知することにこれまでも力を入れている。引き続き、建物を活用していくことに力を入れていきたい。
事務局	補足をする、外国人の方が住んでいるといった場合では、所有者がいて不動産屋などが管理をして貸出している物件になる。最近は、所有者が分からない、連絡がつかないという空き家が増えている。こういった空き家は、行政としてもなかなか手が出せない。 誰が管理している、所有しているかがある程度わかる場合には、益田市の場合、まず空き家バンクに登録してもらうための支援として、家の中に家財などが残っていた場合の処分経費を補助率3分の1で上限3万円の補助であるとか、登録していただいたときに1回限りではあるが3万円を上限に固定資産税を減免している。また、改修経費を補助率3分の1、今の制度で上限30万円の補助をしている。 登録があると制度を活用しながら空き家を活用できるが、なかなか登録に至らない物件や、登録していただいてもなかなか売買や賃貸で活用いただけていないという状況にある。

委員	空き家だった家に住んでいる学生もあり、空き家を活用して住みたい学生も多い。現状、どれぐらい空き家バンクに登録されているのか。何がネックで、このギャップがあるのか。空き家バンクに登録するに至っていないのか、もしくは登録はあるけれどもマッチングをされていないのか。
事務局	どれぐらい登録があるか、今、情報を持ち合わせていないが、最近は、賃貸よりも売買、益田市の空き家バンクのホームページにも新着で載せている物件は売買をしたいという物件が多い。空き家の登録をして活用してもらうために、Ｕターン・Ｉターンしていただける方に対して紹介をしているが、そういった方自体も少なくなっている。 移住定住フェアで東京や大阪、広島に出向いてＵＩターンの相談をする中で、当然、住むところも必要になるので紹介しているが、なかなか活用に結びついていない。
事務局	今、持ち合わせている資料では、益田市での空き家バンクの登録件数は、令和５年度の新規登録が２１件。それ以前の登録もあるが、成約に結びついてない物件もある。令和５年度に限って言えば、新規で２１件あったところ。
委員	島根県の、特に松江とか出雲ではない、いわゆる田舎に住みたいという人たちのニーズも増えている。その人たちは、昔ながらの家に住みたいという人たちも多い。この地域は、県立大学生ではなく、都市部の大学がインターンとして１年から２年学びたい人も多い。ぜひ、そういう若者たちが使えるような施設や空き家の活用、またそれを機に交流人口・定住人口を増やすようになってもらえたらと思う。
事務局	全国的にはそういった田舎に暮らしてみたい、空き家に暮らしてみたいという若い方が多くいるという情報を我々も得ている。この空き家バンク制度が、空き家を持っている方々に周知ができて、登録していただいて、どちらにとっても幸せな形になればと思っている。引き続き、この制度について周知を進めていきたい。
○令和５年度実績、令和６年度取組予定の事業について事務局から報告（資料３）	
委員	先ほどの資料２の通番１８「消防・防災危機管理体制整備事業」は進捗率６７％であったが、こちらは事業費としては取っていないということか。
事務局	資料２の通番１８「消防・防災危機管理体制整備事業」の令和５年度末実績は、圏域合計が年間４回で進捗率６７％であった。これに関する予算の部分は、資料３の通番５７が該当する。これを見ると、額としてはゼロ予算でやっているというところと、益田市は若干の経費をかけているが額としては小さい。訓練は、実際に災害が発生したという想定で、市民の方々にも参加いただきながら防災訓練や啓発活動などを行っている。予算としてはつけてはいないが活動は行っている。
委員	先ほどの説明でも、小さい単位のものはこちらの中には入っていないということだったので、予算はないけれども小さい活動はされているということなのかと思っている。気候変動で大規模災害が増えているので、このようなソフトの対策が非常に重要になってくると思う。
事務局	１１月２日の台風、温帯低気圧で石西地区ではかなり雨が降り、それぞ

	れの市町でも避難所を開設した。そういったことも気候変動によって起こってきている状況。私たち行政も含め、市民の皆様方が危機意識を持って行動できるように進めていきたい。
委員	この懇談会は、資料にあるような経過を経てできている。最初は、日赤での里帰り出産ができないということで医療問題の意見が多かった。このため委員の数も医療関係が1番多い。 いろいろな意見を毎年1回、多い年で2回開催して我々の意見をくみ取って事務局が資料を作っている。一つ一つやるときりがない。ここに上がっていないような新しい問題があったら指摘をして、またお互いに考えていくというふうにしてはいいのではと思う。
委員	今、山陰本線が津田のほうで大変なことになっている。新聞を見れば、来月の上旬には直すとJRの責任者の方が言っている。これは大きな問題ではないか。マイカー時代で公共交通機関はどうでもいいと言われるならいいかもしれないが、そうではないと思う。
委員	今年は益田まつりも夏の花火大会もなかった。匹見や美都は一生懸命にいろいろなことをやっている。昔は市役所に地域振興課があって、毎日のように出向いて意見交換をしていたが、いつかの広報ますだでは、自治会はつくらないといけない組織ではないという内容の記事もあった。益田まつりも益田水郷祭も、全市民参加型の新たな組織体制でと広報に出ている。もう市は一切関与をしないということだろうか。 駅前の寂れようはもう目を覆うばかり。EAGAの1階に入っていた商店は薬局だけ残ってあとは全部ない。2階にも市役所関係が入っている。大変なものをつくったけども結局、うまくいかなかったということは問題だ。 雪舟さんまつりは吉田地区連合自治会が中心になって今もやっている。自治会・連合自治会がしっかりしているところはやっている。全市の祭りが駄目になっているということは考えてもらわないといけないと思う。 あれほど優遇されてきた3公社5現業が駄目になっている。これこそ考えないと。 ほかの視点で気がついたことを大いに言って、益田市をよくする方向に持っていけないといけないと考える。
委員	山陰線については、医師会病院もドクターが大学から来るのにタクシー一代を出しているという状況。そうしてでも来ていただきたいというところもある。益田の観光についても、ここで話したことは行政のほうに反映されるのではないかと思います。事務局も意見があったことを伝えてほしい。
事務局	市民の皆様方が心配されている部分だと痛感している。今後、圏域全体を盛り上げていけるように、人口が減る予測の中で住民の皆様一人ひとりが幸せに生活できることを目指すために、まずは議論いただいている。個別の問題についても、ご意見があったということを各市町、益田市役所内でもきちんと共有しながら、今後の皆様の生活の部分に寄与できるように邁進していきたい。
委員	資料3の通番31「水産振興補助金」が新規の漁業者の補助金がなくな

	ったということだったと聞いたが、そういう認識でよいか。
事務局	こちらは益田市のみでの補助金。沿岸自営漁業の新規漁業者への補助が令和5年度で終了したためである。
委員	うちの団体で、ここには載っていないが「鴨島はまぐり」の保全活動や調査活動等をしている。「鴨島はまぐり」の漁師が減っており、毎年1人2人がやめている。今は4人しかおらず、この先10年で多分、「鴨島はまぐり」の漁業はなくなるだろうという危機感から、私も来年ぐらいから取り組んでみようと思っている。漁業の仲間に声をかけたら、自分もやろうというのが数名いた。このままだと「鴨島はまぐり」が獲れなくなるというか、漁業者がいなくなったら、多分、密漁が横行して漁場が死んでしまう。そういうこともあり「鴨島はまぐり」を守るためには漁業が必要。自営の漁業者は若手がほとんどいない。片手で数えるほどしかいない。皆それだけで食べていかれないから、釣り船をやったりしている。新規漁業者への補助を続けてほしい。
事務局	各事業の中にも、アユの放流といったもので地域産業の振興という部分も掲げている。はまぐりもここ10年ぐらいで、かなり益田市の産業の中でも評判の良い、大きいのはまぐりが獲れるということで、全国的な認知度も高くなってきている。委員のご指摘の部分を今後、施策に反映できるように努めていきたい。
委員	資料3の通番44「インバウンド推進事業費」で、全体の観光の延べ人数があったが、その中で現状、インバウンドというか外国人がどれぐらいなのか。
事務局	外国人に限っての入込客数は、申し訳ないが資料を持ち合わせていない。
委員	インバウンドは、この地域ではどちらかというと進めていこうという方向なのか。来たい外国人は受け入れるという方向なのか。
事務局	このインバウンドの部分については、中国地方では広島が結構、外国の方が来られているというところ。山陰では、出雲市にもかなりの外国人観光客の方が来られていると聞いている。また、ニュースで知ったことだが、山口県にも外国人の方が多く来られていると聞いている。その関係で、津和野町にも外国人の方が多く来られていると聞かすが、何かそのあたりの情報があれば提供いただきたい。
委員	津和野町観光協会としては、今実際にインバウンドのお客さんの入り込みが上がってきている。コロナの影響でインバウンドがゼロの年もあったが、コロナ前と比べてインバウンドの方、外国の方が入ってくる伸び率が倍以上に増えている。津和野町の場合は、欧米系の方がかなり多く7割ぐらい。実際に統計を取っているのは宿泊客だけで、実際の入り込みは肌感覚でしか分からない。実数を取らないといけないという一つの課題だが、毎日のように窓口に来られる。それこそ10人、20人の団体さんが来られる。それくらい伸びている感覚がある。 先ほど話があったが、ニューヨークタイムスで「今行くべき観光地」の中の2番目に取り上げられたのが山口市。その山口から流れてくるお客さんがかなりいると思う。新山口から津和野まで毎日運行している「特急スーパーおき」に乗って来られる外国のお客さんが増えてきたと感じ

	ている。少なくともうちとしてはインバウンドは力を入れていくべき事業だと考える。
事務局	その波及という形になると思うが、益田市では中世の歴史という部分を進めているので、そこからさらに興味を持ってという形になっていけばいいと思っている。
事務局	先ほどお伝えできなかったが、令和 5 年度の外国人の宿泊数は、益田市が 1,783 人、津和野町が 634 人、吉賀町が 0 人となっている。おそらく、山口を拠点として見ていかれる方が多いと思うので、宿泊のみでは測れない部分も多いのではないかと思います。
委員	インバウンドの外国人観光客の問題もあるが、お金をよく落とすのはやはりインバウンドだと思う。英語を話せる人がいないので、外国人の人が増えても誰も対応できないということもある。インバウンド対応というところで、英語対応のガイドなどが今後必要なのではないかと思う。
委員	新聞でも出ているが、バスの 3 路線が廃止されるということで、医療について心配しているところがある。来年度に向けての生活バスの予算等を何とか確保していただいて、住民の方が通院等できるようにしていただければと考えている。
委員	皆さんにはご心配をおかけしている。昨年も話したが、やはりどうしても乗務員が不足しているということ。これはもう、今年や去年に始まったことではなく、もう 20 年ぐらい慢性的に乗務員がいないということが続いている。そうした中で、働き方改革などもあり、なかなか乗務員を長く拘束できないとか、いろいろな面があることも今回の路線廃止になったきっかけではある。 それとやはり補助制度。なかなか採算が合わず、国や県、市町村から補助金をもらって運営させていただいているという現状であるが、補助制度も変わってきたりする中で、公共交通機関なのでお客様が 1 人でもいけば使命としてやっていかなければいけないというのが我々のモットーだが、そういったところを加味しても、もう限界が来ている。 生活バスのことが資料にもあるが、頑張ってできる路線はしっかりこれからも続けていこうと思う。廃止してしまう道路なんかは乗り合いタクシーとか生活バスとかしっかり連携して今後やっていきたい。
事務局	これまで何度も協議を行ってきた中での今回の判断を受けてということであるが、益田市としては、住民の皆様が不便を感じないように考えていきたい。これまで通りということはなかなか難しいとは思っているが、可能な限り公共交通機関の維持、また、来年以降にはなるが、今回の状況を踏まえてどういうふうにしていくか考えていきたいと思っている。現時点でなかなかお示しできるようなことにはなっていないが、また詳細が決まれば、お示ししたい。
4. その他	
事務局	後日、会議録の送付と、委員報酬、旅費の振込をさせていただくが、少し時間をいただくことをご了承いただきたい。来年度の懇談会については、現時点で開催時期等は未定。また、現在の委員の任期が令和 7 年 3 月 31 日までとなっていることから、今年度末から来年度初めにかけて、

	現委員および各所属団体にあてて来期の委員の就任についてご相談をさせていただく予定。詳細が決まり次第、ご案内をさせていただく。
事務局	委員の皆様方から様々な意見をいただいた。益田圏域として、今後も住民の皆様方が暮らしやすい地域を目指していけるように、これからも頑張っていきたい。本日いただいた意見を十分参考にさせていただきながら行政活動が続けていきたい。
5. 閉会	